



私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形作られることです。



transforming lives
and communities

global

OM日本ニュース 第80号 2018年 夏



嵐の中の希望

バングラデシュ

ミャンマーから逃れてきたバングラデシュ国内のロヒンギャ難民の数は70万人とも言われています。OMは現地で支援活動を行っている団体に協力しています。現地チームは軍とも良い関係を築いており、軍からの物資の配給が行き届かない地区での物資の配給を依頼されました。

捧げよう



OM日本事務局ではロヒンギャ難民支援への献金を受け付けています。

救援活動の募金

郵便振替口座 02100 - 0 - 24998

加入者名「OM日本事務局」

食料、石鹸、傘などの必需品を1000家族に配布。翌日には、難民の子どもたちが、自分たちが見守られ、愛されていることを実感できるようにと、チームメンバーは彼らと一緒に時間を過ごしました。強い日差しを避けられる場所で、子どもたちの爪や髪の手入れをしてあげながら、心の中で彼らのために祈りました

「私たちができることといったら、わずかのことです。でも私たちは、ロヒンギャ難民の現状から目をそらさず、あなたができることをするように、と神に召されました。私たちは『御国が来ますように。みこころが天で行な

われるように、地でも行なわれますように。』と祈ります。天国に飢餓はありません。家を失う人もいません。私たちは主の祈りをささげる時、この地上で行動する必要があります。祈るだけではなく、実際に難民たちを援助する必要があると思います。」難民支援プロジェクトに携わるサウロ牧師はこう語る。

OMのパートナー団体は、これまでの緊急支援物資の配給の段階から、難民キャンプや周辺地域のコミュニティに対して長期的な働きに移行していきたいと願っています。そのために最近、この地域での継続的な働きに関わるために、長期、短期のワーカーが数組、バングラデシュに到着しました。

難民キャンプがあるコックスバザールの近くに事務所を設立する準備をしているソフィアは、4月に救援物資の配給の働きに参加しました。彼女は、現地で女性や子供たちに挨拶をする、いつも笑顔で返してくれると話しています。ソフィアは、人々の中に希

望を見出すと同時に、モンスーンの季節が近づくにつれて、大きな恐れがあることを感じています。

「今、彼らが建てて住んでいる建物は、数週間から数カ月後には雨季のために全て破壊されているかもしれません。臨時の避難所は大雨と大風によって壊れ、救援物資を運ぶ道路は通れな

くなり、土砂崩れによって家族はバラバラになり、下水道のないトイレは氾濫し、水が飲めなくなり、病気が蔓延するという、現実的な恐れがあります。」と、ソフィアは話します。

パートナー団体は、彼らの避難場所をできるだけ安全なものにするためのシェルターのキットを配布し、より良い排水計画や、家族と離れた場合の子供の識別システムなども確立しようとしています。雨季が終わった後も、難民たちがはたつととして、希望に満ちていられるような働きを目指しています。

祈ろう



難民キャンプで長期活動をする許可を政府から取得できるよう。ロヒンギャ難民の健康、安全、そして神の愛を知ることができるように。ロヒンギャ難民の方々が、雨季がもたらす危険の中で健康と安全が守られるように、嵐の中でも彼らを見守ってくださっている父なる神の愛を知ることができるようにお祈りください。

ロゴス・ホープ号



1970年から今まで世界中で用いられてきた歴代のOM船。知識、援助、希望を届けるため、そして世界最大の移動書店であるロゴス・ホープ号。この船にこれから乗る準備をしている若者と、奉仕期間を終えた若者の証です



足りない私でも用いてくれる

西岡 牧葉 今年2月に奉仕期間終了

こんにちは。私は2017年2月から一年間、ロゴス・ホープ号に乗船して奉仕中、いろんな活動に参加して神様からたくさんのことを教えられました。その中から1番の出来事を紹介したいと思います。

それは、LITと呼ばれる年に2回行われていた特別トレーニングの参加者に選ばれたことでした。そしてそのトレーニングの中でも一番大きい「信仰旅行」と言う宣教旅行を南米のコロンビアで行なった時のことです。

「信仰旅行」とは、お金・食べ物や携帯などの機器をいっさい持たず、売ったり配ったりする本や聖書とトラクトをリュックに詰め込んで基本的に歩きで目的地に向かい、宣教をしていくことです。主が全てを備えてくださり、宣教できるのだということを信じて、主の偉大な力に頼りきり3日間を過ごす体験なのです。私達の4人のチームの中で、現地の言葉であるスペイン語を話せる人は誰もいませんでした。事前に調べて書いておいたノートを指さして会話をしたりと、サバイバルそのものでした。

主は今も本当に生きておられ、私たちは毎食与えられ、泊まる場所も鍵のかかる安全な場所を2夜とも確保することが出来ました。安全も必要も満たされた私たちでしたが、実は2日目に宣教することにつまづき、仲間同士でのぶつかり合いも悪化して、私は大学近くの小さな公園で20分ほど黙り込み座っているしかできなくなりました。しかし、そんな壊れたやる気もない私たちを用いて、主は私が朝に会ったもう一度会いたかった人と、またその人の友達も連れてきてくださり、私たちに、聖書をプレゼントし交わりを持つチャンスを与えてくださいました。思い切って、踏み出す時、主はその偉大な御力をこの足りない私たちのうちに最大に現して用いてくださいました。

この経験でわたしは、本当に主には不可能なことは無いのだと実感させられました。私はもう船の奉仕期間が終わり、日本での生活が新たに始まりました。でも船を降りて日本にいても、そんな主がいつも私と共にいてくださると思うと、本当に励まされます。



OM交流会 in Tokyo



今年3月、東京を会場に元OMメンバー、OM関係の友、約40名の方々と共にOM日本交流会が持たれました。各々が久しぶりの再会と新しい出会いの時に大きな喜びが溢れました！ロゴス・ホープ号から戻ったばかりの方や、20年以上前に、初代OM船、ロゴス号の働きに携わって下さった方々もいました。この長い年月の間に、多くの日本人がOMの働きに関わって下さいました。神様によって触れられ、変えられた人生が、引き続き神の国の為にこの日本で用いられていることは何と素晴らしいことでしょう。弟子訓練は、OMの働きにとって核であり続けています。

OM船「ロゴス・ホープ号」

OM船STEP



- ① ロゴス・ホープ号、またはアメリカ合衆国
- ② 2〜3か月（船）、2週間〜3か月（アメリカ）
- ③ 多くの文化が共存するロゴス・ホープ号やアメリカのサウスカロライナ州フロレンスにあるOM Shipsミニストリーセンターで、世界宣教を体験してみませんか？

ロゴス・ホープ号



- ① 世界中
- ② 1年間／2年間
- ③ ロゴス・ホープ号で、様々な国を航海するボランティアのクルーとしてミニストリーに参加します。人生を変えるようなアドベンチャーがあなたを待っています。OMの公式なMDTプログラムではありませんが、ロゴス・ホープ号船上でも、それぞれの部署での職業訓練の他に、様々な形式の宣教、弟子訓練が提供されています。

祈ろう



ロゴス・ホープ号は引き続き中南米の国々を訪問して行きます。訪問される方への祝福と、船の宣教が用いられますように。



夕日の中停泊するロゴス・ホープ号

西岡さんと、「信仰旅行」の
チーム。南米コロンビアにて。

額田くんとクラスメート。
アメリカ・サウスカロライナ州にて



掛け替えのない経験

額田 潤 今年9月乗船予定・準備中

私は3ヶ月間、アメリカのサウスカロライナ州、フローレンスにEIPという英語研修に行ってきました。ロゴスホープに乗船するため、船の公用語である英語を学ぶためです。

フローレンスは山がなく、とにかく平地が続く広い所でした。広い分、少し買い物に行くのも、歩くと1時間かかってしまうので、いつも車で行動する毎日でした。

EIPの参加者は私を含めて韓国人4人、ブラジル人1人の計6人。教えてくれる先生は、スイスのOM宣教師、そして数人のボランティアの先生でした。

EIPに来る前、私は日本の学校と同じで文法を習ったりするのかと思っていました。でも実際は、プレゼンや救いの証を英語でしたり、英語で話をされている内容に英語で答えたりと、その内容のほとんど実践で役に立つものばかりでした。おかげで英語で話す度胸をつけることができました。

午前中の教室での勉強が終わると、午後はボランティアの時間で、ロゴス

ホープでに積み込む本の整理や箱詰め、またその箱をパレットに乗せるなどの作業をひたすらしました。

この作業には、ボランティアで参加している同世代の人もたくさんおり、ドイツ、イギリス、スイス、フェロー諸島など沢山の国の人々と出会い、友達作りをすることができました。アメリカに来る前、自分はまさかそんなにたくさんの国の、しかも同世代の人と友達になれると思っていなかったのととても感謝でした。

毎週木曜日は1時間、OM宣教師の方が、ロゴスホープや自分の人生について証をしてくださり、たくさんの学びの時となりました。

私は今まで、当たり前のように家ではご飯を作ってもらい、皿を洗ってもらい、洗濯をしてもらい、自分用の部屋をあたえてもらっていました。そしてこれまで1人で海外に行く事や、3月間も家を離れることも経験した事がなかったので、一人暮らしで自炊や洗濯をし、またホームメイトが来てから、全然性格の違う4人で共同生活を体験し、アメリカでの生活は掛け替えのな

い良い経験となりました。

また自分の家族も含め、教会の人々が祈りや献金で支えてくださって送り出してくださっている事を改めて感じ、本当に感謝でいっぱいになりました。

EIPでのこの3ヶ月間、色々な国の人々と共に生活する環境を初めて体験し、思い通りにいかない事、腹が立つ事を何度も経験しました。そんな時に神様は「私に繋がっていないさ」と教えてくださいました。しかし、それでも私は自分の感情や考えを抑えきれない時があり、そう言う時は当然ながら結果は良いものにはなりません。また同じ間違いを繰り返す事も多々あり、失敗や後悔の連続でした。でもそんな時だからこそ、神様に繋がって従う事、また聖書を読む事、祈る事がすごく大切なんだと、本当に実感させられました。🙏

捧げよう🎁

ロゴス・ホープ号に必要な物資を購入し、寄港先で必要な助けを届けるために用いられます。OM日本事務局では、みなさんの献金をお待ちしております。

🏃 宣教訓練&英語の学び

世界中で行われているOMの宣教プログラムの多くは、ミニストリーへの参加と同時に、国際的な環境で英語も上達させることができる機会も提供しています。もっと集中的に英語を学びたい、将来世界宣教に参加するために語学を習得したい、という方にはアメリカやイギリスで行われている英語のレッスンとミニストリーへの参加が組み合わされたプログラムをお勧めします。

🏆 OM船English Immersion

Program 🇺🇸

- 📍 アメリカ合衆国
- 📅 2018年3月2日～5月20日
- 💰 2,300米ドル（予定：滞在費、食費）
- 👤 18歳以上のクリスチャンで宣教地や教会で仕えるために英語力が必要な方
- 📌 宣教地での働きや、日本国内外の教会でのミニストリーのために英会話を上達することがこのコースの目的。弟子訓練や異文化に適應するための指導、フィールドトリップ（実地旅行）もあり。国際的な共同体で生活しながら、午前中は少人数のグループで英語を学び、午後は書籍の梱包や出荷作業を手伝います。

🏆 ELCO 英語研修&宣教訓練 🇬🇧

- 📍 イギリス
- 📅 毎年1月、5月、9月からの4ヶ月間
- 💰 2100英国ポンド（英語研修、食費、宿泊費）
- 👤 18歳以上。基礎的な英語が理解できること。
- 📌 週20時間の英語のレッスンの他、地域での伝道（地元の教会と一緒に子供、青年への伝道など）を通しての宣教訓練、2週間の特別伝道プログラムにも参加。月1回の社会見学あり。
- ※英語研修がない宣教訓練だけのプログラムもあります。お問合せ下さい。



3年3ヶ月を終え

鎌内 晴香 今年5月に奉仕期間終了



3年3ヶ月のOM船での奉仕を終えて、5月末に帰国しました。乗船中の働きを通して、沢山の奇跡、そして世界各地の神の家族（教会）を見ることができました。送り出し、祈り、経済的に支えて下さった教会と兄弟姉妹に心から感謝します。

最後の寄港地メキシコのベラクルスでは、年1回の船のメンテナンスの期間のコーディネートをし、1ヶ月間計

16チームがメキシコの様々な都市の教会にミニストリーをするために送られていきました。

その一つのチームは刑務所の女性に福音を伝え、20人が神様を救い主として受け入れ、ドラッグ販売をしていた家族が救われ、そのビジネスから足を洗い、苦楽を共にしたチームに成長が見られました。一緒に企画した牧師さんや教会のメンバー、船のメンバーか

らの報告にいつも励まされる1ヶ月でした。

これからは、日本にいる難民亡命者の方への支援を通じて福音を伝えていきます。また、宣教に行きたい方々をサポートし、送り出す人を増やして行きたいです。今後ともOMファミリーとしてよろしくお願いします！ 

ワールドニュース



平和と希望の中で生きる

オーストリア、アフガン難民支援

2016年以来、OMは地元の教会や団体と協力しながら、難民の中で橋渡しをするチームとして働いている。「平和と希望」と呼ばれる家は、信仰のゆえに他の難民との共同生活に問題を抱え、亡命せざるをえなくなったクリスチャンのために提供されている。OMチームは、「平和と希望」にかかわる人々、またいくつかのプログラムとプロジェクトを通して、難民を支援している。

2016年末から、ヤビド*とメリアム*は2人の小さな子供たちと一緒に「平和と希望」の家に暮らしている。アフガニスタン人の家族がイエスに出会い、人生が変えられ、新しい信仰のために苦悩している彼らの話は、OMチームの心に触れた。悲しいことに、他の元イスラム教徒と同様、彼らはオーストリアで差別に遭い、他のイスラム教徒からは二級市民として扱われてきた。ヤビドはこう思い起こす。「最初の難民住宅では、共同で使っていた皿を使うことは許されなかった。他のイスラム教徒からは、私たちが皿を汚すと言われた。他のイスラム教徒がいるときは、キッチンに入ることも許されなかった。私たちが、不信仰で不浄であるという理由からだ。」

そのため、この若い家族は「平和と希望」の家に移ったことに感謝している。「私たちがこの場所で暮らせることを神様にとっても感謝しています。やっと、平和の中でイエスの信仰に生きる場所を見つけたのです。私たちは毎週日曜日、家族で教会に行き、色んな面でのサポートを受けています。私の妻は、ドイツ語のクラスだけでなく、母と子の集まり、そして裁縫クラスにも通っています。可能であれば、週に一度の聖書研究に参加し、家族でインターナショナルカフェを訪れます。私たちがここに住むことができ、クリスチャン達と多くの係わりが持てることを本当に嬉しく思います。」と、ヤビドは話す。

ヤビドと家族の信仰は成長し、この良い知らせを他の人々と分かち合いたいという願いが高まっている。以前ヤビドは彼の証を130人の前で分かち合ったことがある。その多くはイスラム教徒だったが、その証は彼らの心に響いたようだった。ヤビドはトルコ語が上手く話せるようになるにつれ、グラーツに住む多くのトルコ人にも福音を伝えたいという願いが増している。

グラーツにおいて、より多くのクリスチャンが良い知らせを人々に分かち合い、そのことによって、さらに多くの人々がイエスに出会うことができるように。福音を聞いた人々に信仰が与えられるようにお祈りください。 



捧げよう！

OMの働きを覚えてご支援下さい。



OM日本事務局支援献金

OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分でないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先 & 献金送金先

特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。

 www.omjapan.org/give

 郵便振替口座 02100-0-24998

加入者名「OM日本事務局」



行こう

長期宣教

異文化の地で人々と福音を分かち合いませんか？イエス様の輝く弟子として、コミュニティで活躍しましょう。OMは、神様があなたのユニークな賜物を用いてくださる奉仕先に行くことができるよう、お手伝いをします。



海外での宣教奉仕の機会

📍 110 カ国 📅 2年間～

① 詳しい情報、質問などはOM日本事務局まで。現在参加可能な奉仕先をオンラインで見ることができます。

 www.om.org/search/opportunity (英語)



事務局スタッフ募集中

📍 日本 📅 1年間～

① OM日本では宣教師の派遣と受入れに関する人事と会計、記事の翻訳、ホームページなどの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか？関心のある方はお問い合わせください。

ワールドニュース



次の世代の構築

パキスタン

サイフとアスマは、福音の伝えられていない人々の間で、イエスに従う生き生きとしたコミュニティが形づくられることを願い、一つの県で10年間活動してきた。最初の年に掲げた目標は、6名が救われること。しかしその願いはかなわず、2年目も実現しなかった。

「しかし、3年目に神様は一人の受洗している男性を送ってくださいました。」とアスマは話す。「そしてそこから、彼の家族が救われはじめたのです。今では、ムスリムの背景を持つ人達の中から、10の家の教会ができています。」このような変化の背景には、彼らが訓練会を実施し、これまで行っていた学びのスタイルを変えたことがある。その後、2世代目のグループが3つ誕生し、4つの求道者のグループもスタートするようになったのだ。

現在、サイフとアスマは、他の人々にもこの訓練会を提供している。「家の教会が成長する為に何が必要かわかったのです。」とサリフ。そして、アスマによれば、現在、10の家の教会には、それぞれ2世代目のグループが存在し、その他にも、求道者のグループがいくつかあるという。

青年のオスマンは、求道中、いつも家で隠れて聖書を読んでいて。ある日、彼は母が聖書を読んでいるのを見かけた。母は彼に、「誰にも見つからないようにあなたも読んでごらん。でも他の人には口外しないように。」母が聖書を学び始めて6か月経った頃、母はイエスが道であり、真理であり、命であることを悟った。そしてその後、オスマンも信仰をもった。ある日、オスマンの叔父さんが母の聖書を見つけ、彼女に言った、「この本はあなた達には良くない。私がもらっていく。」そうやって叔父は聖書を持って行ってしまった。「でもそんな叔父も今では聖書を読んでいるんですよ。」そう言いながらサイフは微笑んだ。

サイフとアスマがオスマンを訪問した時、新約聖書が皆の目につく場所においてあるのに気づいて驚いた。「今では、私は子供たちの前でも堂々と聖書を読むことができ、子供達にもこの本はとても大切な本なんだと伝えることができるようになったんです。」とオスマンは言っている。彼のまだ小さい息子は彼に、「パパ、その本をどこか安全な所に保管してね。大きくなったら僕もその本を読むんだから。」と言っているそうだ。オスマンの妻も実はこっそりと聖書を読んでいる。「私達は神様が彼女の心を開いて、彼女も主を信じることができるように祈っています。そして、彼らが家族として共に成長することができるように。」とアスマは願っている。

「弟子とする」という任務

イエス様は、「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ」（マタイ 28:19）と言われました。では、この「弟子とする」という任務を、私達はどのように果たしているのでしょうか？

最近、“Miraculous Movements”（“奇跡的なムーブメント” by Jerry Trousdale 洋書のみ）という本を読みました。世界中の福音の伝えられていない民族の間で、神様の成しておられる業を知り、特にイエスのことを全く知らない多くのムスリムの人々の間で福音がどれだけ急速に広がっているかを知り、とても恵まれました。この急速な福音の広がりの最大の理由は、弟子訓練に強い焦点を当てていることです。イエスの弟子になったばかりの人が、周りの人々を弟子にし、そして彼らが隣町に出かけて行って他の人々を弟子にしているのです。この本の著者は、この現象を“Disciple Making Movements” (DMM)、“弟子づくりムーブメント”と呼んでいます。

この本の中に出てくる人々の話や、民族全体がイエスを信じるようになった話を読むと、一つの思いが心に湧き上がってきます。“なぜ同じ現象が日本でも起きないのだろうか？”考えてみてください、もし、日本の教会の各メンバーがそれぞれ周りの人を主の弟子とすれば、日本の教会が社会に与える影響はどんなに大きいでしょうか？数年の間に、現在の減少する教会のクリスチャン人口は急速な成長と共に、大きな変化を遂げることでしょう。

私は、日本の教会にとって新しい日が来ていると信じます。効果的に弟子を育てることを阻む形式的な伝統や習慣を積極的に取り除くなら、日本における霊的な突破は近いと信じています。

OM日本の持つビジョンは、日本に住む人々を主の弟子とするだけでなく、イエスのことが伝えられていない場所ならどこへでもです。これまでに100名近くの日本人の方々がOMプログラム（短期宣教旅行から2年間の訓練プログラムまで）に参加下さったことを主に心から感謝しています。私達は、もっと多くの方々がイエス様が命令されたように、すべての国へ出て行って弟子とすることができるよう祈っています。もし、皆さんの中で、OMの提供する様々なプログラムに興味をお持ちでしたら、どうぞOM日本事務局までご連絡ください。

より多くの収穫を願いつつ
スティーブン スミスドルフ
OM日本代表

 OM日本代表、妻の契子と3人の子供達、モーゼ（16）、恵真（12）、ヨハン（9）と共に宮城県在住



OMとは？

OM（Operation Mobilisation）は、世界約110カ国で3200名が活動している世界宣教団体です。OMは世界における福音伝道のために奉仕者の育成を行っています。また、特に福音が届きにくい地域に重点を置き、教会開拓や教会の働きを強化する働きも担っています。

宣教

キリストの大宣教命令に基づいて伝道をしています。神はごく普通の人々を大いに用いる方であることを覚え、福音を述べ伝えてます

人道支援

地震や洪水で被災した人達への災害支援、また難民の方々に寄り添い、キリストの愛と憐れみを示していきます

教会開拓

教会開拓では、既存の教会が少ない地域での活動、また日本の既存教会へ派遣され、「協力宣教師」として教会開拓に貢献します

正義

義でおられる神に遣わされた者として、人身売買、児童労働、麻薬、組織的暴力や性的暴力のもとで不当な扱いを受けている人々に寄り添い、助けます

訓練・育成

宣教地における弟子訓練を通して、技術や知識だけでなく、信仰面からも奉仕者の指導と育成を行います

OM日本・OM Japan

 www.omjapan.org  fb.me/omjapan  info.jp@om.org

 +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)  〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

 郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」

OM日本ニュース 第80号 2018年 夏
発行人：酒井信也 編集：近藤健二

写真提供：Manna Man, Garrett Nasrallah, OM Ships International, OM International

